



教区宣教司牧評議会



6月13日、札幌教区カトリックセンターにおいて、教区宣教司牧評議会（以後、教区宣司評）がハイブリッド形式で開催された。

年に2回（6月・11月）開催される教区宣司評は、教区長である勝谷司教指導の下、各地区の宣司評であがってきた課題や、司教の諮問、また、札幌教区全体の課題について話し合い、そこで共有されたものについて、評議員が、各地区や小教区に持ち帰ることを目的としている。

会議は最初に、2024年に任命された評議員の任期（2年）が切れたため、各地区から新しい評議員が任命され、また教区司祭の人事異動などにより、新しい評議員となったメンバーが報告された。司教から、2021年から始まったシノドスの歩みが、2028年に向けて内容を「理解」する段階から、今より新しく「実施」する時期へ入ったことが示され、その中で特に強調されていたのは、小教区の未来に向けて、一部の司祭や役員だけで決定するのではなく、より広く全ての成員が参加するよう「教会的識別」の重要性であった。今後も、各地区や小教区でシノドス的な動きが活発になってくれることが期待されている。

午前の部は、各地区から活動が報告された。札幌地区

では、「オルガニストの派遣プロジェクト」が地区主導で行われることが報告された。旭川地区では、地区全体における「地区分担金」を開設計、地区での活動や相互扶助のために活用されることが報告された。函館地区では、例年行われている「千軒岳巡礼登山」がヒグマ出没によって、従来通りの開催が難しいため、新しい形式での殉教者の慰霊方法が模索されていることが報告された。釧路地区では、柏林台教会の閉堂とともに、「新生帯広教会」として再出発することに希望を見いだしていることが報告された。

午後の部は、「年頭司牧書簡」への取り組みについて報告され、「修繕資金の相互扶助制度」についても議論された。その中で、この議論は過去に話し合われた、各小教区における「教会建設資金の共有化」が発端であり、今後の札幌教区の現状を鑑みたくうえでは、教区における「小教区の統合」など、具体的な問題を視野に入れた指針が必要ではないかとの結論となった。そのために、今後、司教から正式な各地区への諮問として指針を提示していただこうと、各地区や小教区で議論を深め、教区宣司評の場において、改めて丁寧に議論していくこととなった。

（札幌教区宣教司牧評議会運営委員長・佐々間力）

全道司牧者大会

2026年6月9日から11日にかけて、全道司牧者大会が札幌北広島クラッセホテルで開催された。参加した聖職者は司教・司祭・助祭・修道者を含め33名であった。今回の大会のテーマは「シノドス流の教会について学ぶ」と題して、シノドス特別チームのメンバーで、東京教区の瀬田教会主任司祭でもあるフランシスコ会の小西広志師に講話をしていただいた。

最近の教会の様子を例にあげ、「知識中心の信仰では

なく、わたしたちの生きている現実から教会は始まる」ということが述べられた。次に最終文書である『シノドス流の教会』の構造が説明された。これにはシノダリティ（ともに歩むこと）の観点から教会の見直しをしようということが示されている。決まりきった手順にこだわることではなく、何が必要なものかを考えることが大切で、重要なことは『見直し』というキーワードである。「関わりを見直すこと」、「手順を見直すこと」、「きずな、つながりを見直すこと」、そして「宣教の仕方を見直すこと」がわたしたちに求められている。そのためシノダリティの教会を作る3つの土台として、神の民による識別と信仰の感覚（センス・フィディ）、宣教へと向かうことについて説明された。最後に人の話を聞くことの重要性について話され、霊における会話は自分の主張を述べるのではなく、相手の話をよく聞くことが求められていることについて説明された。

講演の後、霊における会話をうけて、「あなたは誰と歩んでいますか？」というテーマでどのような教会を目指すのかについて、5つのグループに分かれてそれぞれ分かち合いを行い、最後に各グループからの提言が発表された。



今大会の中で司祭の動向が発表され、また叙階50年金祝の川上剛神父、山本孝神父、今田玄五神父の働きをねぎらい、お祝いした。最終日は北広島教会に移動して、勝谷司教の派遣ミサで締めくくられた。来年は2027年6月7日から9日に行われる予定。（司祭評議会運営委員長・佐藤謙一）

聖香油ミサ

2026年3月31日、カテドラル北一条教会において勝谷司教司式により、全道から会した司祭団とともに聖香油ミサが捧げられました。

毎年のことではありますが、年に一度、札幌教区で働く司祭団が、司教のもとで「司祭の約束の更新」を行い、叙階の日にキリストへの愛のもと、喜びのうちに担った聖なる誓いを思い起こし、この約束を新たにします。日々、聖務に励む先輩神父達の中に加わり、この約束の更新をするこにより、叙階の時に受けた恵みを改めて思い出し、「司祭職」が持つ使命を果たすことができるよう、互いに励まし合い、祈り合う、大切な機会となります。

また、このミサの中で、3種類の油の祝福と聖別が行われます。司教によって、『病者の油』と『洗礼志願者の油』が祝福され、『聖香油の油』は聖別されます。若手の神父達が、この三種の油を持ち運ぶのですが、札幌教区の壺（アンフォラ）は非常に重たい物が使われます。若い頃に



は自ら持ち運んだことであろう先輩神父達の「ガンバレ、ガンバレ」と励ます声に支えられ、今年もなんとか落とさずに運ぶことができました。

私たちの信仰生活に欠かせない塗油ですが、ギリシア語で「クリスマ」であり、そこから「キリスト者」という言葉に派生したと考えられています。私たちは「洗礼」「堅信」の時、そして司祭達は「叙階」の時、聖香油の塗油によって「塗油された者」、すなわちキリスト者となりました。キリスト者とは、キリストの使命を受けた者として、各々の場で自分の使命を果たします。すべてのキリスト者はそれぞれの場にありながらも、一つの教会のために働くのです。そのために、互いに励まし合い、互いに祈り合うことの重要性を思い起こすことも、聖香油ミサの味わいなのだと感じております。

（千葉充神父）

柏林台教会感謝ミサ 62年の歴史に幕



3月20日（金・祝）、カトリック柏林台教会の閉堂にあたり、感謝ミサが勝谷司教司式により執り行われました。

当日は春の到来を思わせる陽気に恵まれ、柏林台・帯広教会の信徒のみならず、釧路旭川、さらには遠く東京からもお越しいただき、加えて教会とともに歩んできた、隣接する柏林台カトリック幼稚園の教職員や卒園生などの関係者を含め、当初の予想を大幅に上回る140名が参列して聖堂を埋め尽くしました。司教と6名の司祭団によるミサが捧げられた後、会場を幼稚園に移して感謝の茶話会を開き、思い出話に花を咲かせました。

茶話会終了後には、各教会に聖堂の中のいろいろな備品を引き取っていただきました。祭壇、ベンチ、エレクトーン、十字架、十字架の道行き、マリア様の御像など、私たちの思い出が詰まった多くの品々が、各地の教会で使っていた

にも感謝しています。

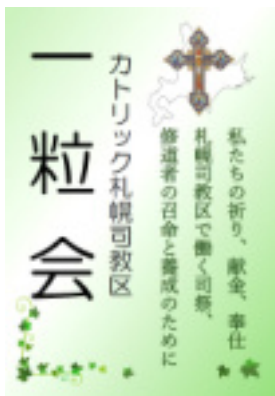
1964年、帯広市西部の新興住宅地に産声をあげた柏林台教会は、62年にわたり幼稚園とともに地域に根を下ろして福音宣教活動を担ってきました。近年の信徒減少と高齢化・聖堂の老朽化等の情勢をふまえ、2025年12月31日をもって閉堂、帯広教会と統合し、すでに新たな信仰共同体としての歩みを始めています。

教会の解体工事は6月ではほぼ終了し、がらんとした空き地になった柏林台教会の跡地を見るのは寂しい限りです。しかし、司教が感謝ミサの説教の中で語られた「この地域の灯であったこの教会の建物が無くなったも、これからはその灯を信徒一人一人の胸に灯していつてほしい」と言われた言葉を胸に刻み、帯広教会における新しい信仰共同体づくりに皆で励んでいきたいと思えます。

（旧柏林台教会信徒代表・

西野伸朗）





「札幌司教区一粒会から」

昨年4月1日付で施行された規約に基づき、教区組織として位置付けられた一粒会。6月13日に開催された教区宣司評の後、一粒会委員会を開催して決算報告をさせていただきました。昨年度からは教区神学生養成のみならず、札幌教区に関わる司祭、修道者の召命と生涯育成のための組織として、会員である教区信徒の皆さんの祈りと献金に支えられています。

穫り入れ主なる御父に呼ばれて「働き手」となる形は実に様々であり、人の考えを超え人の目には不思議に思える形もあるかもしれません。様々な召命の形を皆さんと共有する機会があればと思います。司祭になるまでの道のり、神学生の生活、様々な修道会の存在と活動、そのようなことを皆で分かち合える集まりができればいいなと思っています。

私たちの献金も、祈りも、そして私たち自身もちいさな「一粒」かもしれません。しかし、その一粒を決して見逃さず、決して聞き逃さない主を信頼できることが私たちの希望です。配付させていただいた一粒会発行の【召命を求める祈り】はお手元にありますか？主日ミサの前後に小教区の皆さんで、またお一人での日々の祈りの中で、心を一つに祈りましょう。

そして12月3日は「日本宣教の保護者 聖フランシスコ・ザビエル司祭」の祝日であり、「札幌教区一粒会の日」です。この日に向けても一粒一粒を積んでいきましょう。

(札幌司教区一粒会委員長・荒木関充)

2025年度 カトリック札幌司教区一粒会 決算報告

自：2025年4月1日 至：2026年3月31日

(単位：円)

収入の部			
勘定科目	2024年度	2025年度	2025年度摘要
一粒会献金収入	10,851,161	11,064,589	小教区42口、修道会4口、地区大会1口（下記一覧参照）
受取利息配当金	7,868	37,156	
当期計	10,859,029	11,101,745	
前期繰越金	16,725,571	20,082,779	
収入の部合計	27,584,600	31,184,524	

支出の部			
勘定科目	2024年度	2025年度	2025年度摘要
一粒会献金支出	7,477,466	4,491,985	神学院運営分担金3,112,925、司祭黙想会362,000 他
通信運搬費支出	3,366	0	
報酬手数料支出	20,989	10,900	振込手数料 他
当期計	7,501,821	4,502,885	
次期繰越金	20,082,779	26,681,639	
支出の部合計	27,584,600	31,184,524	

2025年度 「一粒会献金」受領先一覧

【札幌地区】	8,582,114	【函館地区】	654,826	【苫小牧地区】	613,492
岩見沢教会	250,000	江差教会	32,200	伊達教会	58,528
恵庭教会	73,900	当別教会	49,500	登別教会	86,000
江別教会	147,200	宮前町教会	23,326	東室蘭教会	219,500
大麻教会	253,000	元町教会	242,800	苫小牧教会	219,464
小樽教会	270,225	八雲教会	10,000	室蘭教会	30,000
北一条教会	941,700	湯川教会	297,000	【釧路地区】	427,770
北十一条教会	723,285	【旭川地区】	453,987	帯広教会	188,881
北二十六条教会	1,372,100	地区カトリック大会	107,261	釧路教会	207,489
北広島教会	469,800	旭川五条教会	29,600	柏林台教会	31,400
小野幌教会	421,450	旭川六条教会	161,410	【北見地区】	32,400
倶知安教会	10,000	枝幸教会	13,000	北見教会	32,400
新田教会	115,000	士別教会	10,250	【修道会】	300,000
千歳教会	45,350	砂川教会	11,650	カルメル修道会	70,000
月寒教会	712,940	滝川教会	32,000	マリア院(ケ・オルギ・オ)	200,000
手稲教会	416,429	美唄教会	21,700	マリアの宣教者(FMM)	10,000
花川教会	20,000	名寄教会	12,500	聖心会	20,000
真駒内教会	803,400	留萌教会	54,616		
円山教会	886,900				
山鼻教会	649,435				
				献金収入 総合計	11,064,589

2026年度

札幌教区のシノドスに

向けた新方針

札幌教区シノドス・チーム

●松村繁彦神父 ●千葉充神父

●Sr. 宮崎妙子 ●荒木関充氏

この春より教区シノドス・チームは、佐久間力神父に代わり、松村繁彦神父と千葉充神父が新たに加わりました。前任から継続のSr.宮崎妙子、信徒の荒木関充氏とともに、4人体制で新たな歩みを始めています。

ここに、2026年度の基本方針をお伝えいたします。私たちはシノドスのテーマ「交わり参加、宣教」のもと、勝谷司教の2025年・2026年、年頭司牧書簡に示された『実践』と『再評価』を目標に掲げて進んでまいります。

【実践】練習から、各小教区での主体的な歩みへ

これまではいわば「霊における会話」の練習期でしたが、いつまでも練習のままではいられません。各小教区の課題に対して、この分かち合いを実践していかなければ、シノドス（一致を目指す教会）の構築や発展は望めません。2026年度は、直面する課題に各小教区が主体

的に関わっていけるよう促していきます。そのためには「聖霊による識別」に向けた体系的な学び（イグナチオの霊性など）が不可欠です。この「識別」は以下の4つの立場それぞれにおいて求められます。今、自分たちに必要なのかを祈りの内で見極めていきましょう。

①個人で行う

②共同体として行う

③教導職（司教・司祭）が行う

④すべての人と共に行う

また、これまではチームからファシリテーターを派遣してきましたが、これからは誰かに頼るのではなく、自分たちの中からは「見よう見まね」で結構です。実践してみてください。扱う内容は、自分たちの共同体の身近な課題です。自分たちで乗り越えていく前向きな歩みを期待しています。もし不安なことがあれば、いつでも教区シノドス・チームに相談ください。

【再評価】手段を目的化せず、多様な分かち合いの場を

司教が繰り返し勧めてこられた「霊における会話」を継続する一方で、現在の形式からはこぼれ落ちてしまう人々が数多くいるのも事実です。この形式という「手段」が「目的」になつてはいないでしょうか。大切なことは「イエスならここでどの

ような答えを出すのだろうか？」という、愛に向けた一致です。

「霊における会話」の枠組みだけに捉われず、より多様な分かち合いの機会をつくっていただく。その際、以下の「最低限のルール（3つの柱）」を「さえ守られていれば、方法を問いません」。

①耳を傾けること

②祈ること

③すべての人において良いと感じること

状況に応じて柔軟に対応し、他の形式も含め少しでも多くの人の声に耳を傾ける機会が広がり、共同体の一致に向けた動きとなることを願っています。

新委員会設置について

2026年3月をもって、札幌教区内のすべての委員の任期が終わるとともに、組織改編が行われました。2026年1月より構想を続け、2月の司祭評議会をもって決定され、4月の司牧者集会において確認されましたのでここにお知らせいたします。

【改編理由】

2025年度に日本カトリック司教協議会組織改編に伴い、

札幌教区においても司祭不足もあり、その組織へ対応するため組織の一部改正を行いました。ここでは特に変更となった部門について説明したいと思います。

【新設委員会】

●いのち・人権・平和委員会

2026年2月に司教協議会において旧社会司教協議会が「いのち・人権・平和委員会」となり、そこに含まれていた「正義と平和協議会」「難民移住移動者委員会」「部落差別人権委員会」「子どもと女性の権利擁護部門」「HIV/AIDS部門」が統一されました。

札幌教区ではそれぞれの活動団体と繋がり、支え協力する委員会として「いのち・人権・平和委員会」を立ち上げ、今まで行ってきた団体と連携することになります。それぞれの細かな団体・委員会には担当司祭は置かず、この「いのち・人権・平和委員会」に協力が必要な場合連携して支えていきます。

●多文化共生委員会

現在の日本は日本人だけの教会ではなく、多国籍の人々も集い生きる教会へと変化してきました。そこで、国籍を超えて多様化するカトリック信徒の一致と真のキリスト教共同体構築のために新しい司牧のスタイルを模索するとともに、ともに歩む

(Synodality) 教会の建設を目指す札幌教区として、多文化・多国籍の信徒との一致と共生を深めるための司牧活動をサポートする委員会として設置されました。

現在までの「信徒の難民移住移動者・船員司牧・多言語による典礼」を始め、外国籍の人々にとつて過ごしやすい教会は日本人にとつても過ごしやすい教会であることを目指し、少しずつ体制を整えていきます。

【改編委員会】

●召命養成委員会

今までの「神学生養成委員会」「月例静修委員会」「終身助祭担当部門」に加え、昨年設立した「一粒会」がこの委員会の下で統合し、司牧者の生涯養成（神学生・修道者志願期から最後の時まで）に関わる全ての対応を行います。「召命」を豊かに生かし育てるためのものとして、今後の発展に期待する委員会です。

●カリタス委員会

現在まであった「札幌カリタス」「カリタスジャパン担当者」「災害対応委員会」を一つにまとめ、カリタスを実践するための委員会として統合し活動していきます。

（上段記事共に教区事務局長・松村繁彦）

2026年度 教区関係機関 担当司牧者一覧

◎運営委員長

2026年5月1日 現在

委 員 会 名 等		役員・委員名	任期	備 考
宗教法人責任役員会		勝谷 太治 司教	3年	教区長 代表役員
		今 田 玄 五 師		
		祐 川 郁 生 師		
		佐 藤 謙 一 師		
教区顧問会		今 田 玄 五 師	5年	司教総代理
		上 杉 昌 弘 師		教区司祭
		祐 川 郁 生 師		教区司祭
		佐 藤 謙 一 師		教区司祭
		ラ イ ヤ 師		メリノール会
		間 野 正 孝 師		フランシスコ会
教区司祭評議会				
	司教総代理	今 田 玄 五 師	3年	司教総代理
	事務局長	松 村 繁 彦 師		事務局長
	札幌地区 ◎	佐 藤 謙 一 師		地区長
		間 野 正 孝 師		
	北見地区	内 藤 孝 文 師		地区長
	釧路地区	川 上 剛 師		地区長
	旭川地区	佐 久 間 力 師		地区長
	苫小牧地区	今 田 玄 五 師		地区長
函館地区	李 動 珍 師	地区長		
教区宣教司牧評議会				
	司教総代理	今 田 玄 五 師	2年	司教総代理
	事務局長	松 村 繁 彦 師		事務局長
	札幌地区 ◎	佐 藤 謙 一 師		地区長
		間 野 正 孝 師		
	北見地区	内 藤 孝 文 師		地区長
	釧路地区	川 上 剛 師		地区長
	旭川地区 ◎	佐 久 間 力 師		地区長
		ナルチゾ 師		
苫小牧地区	今 田 玄 五 師	地区長		
函館地区	李 動 珍 師	地区長		
教区委員会				
※新委員会	財政委員会	松 村 繁 彦 師	2年	事務局 長(経済問題評議会担当)
	青少年委員会 ◎	千 葉 充 師		
		S r . 菊 地 育 子		
	召命養成委員会 ◎	佐 藤 謙 一 師		※司牧者月例静修・一粒会・ 神学生養成を兼ねる ※教区事務局が協力する
		間 野 正 孝 師		
		S r . 菊 地 育 子		
	典礼委員会 ◎	ラ イ ヤ 師		苫小牧地区
		佐 藤 謙 一 師		札幌地区
		李 動 珍 師		函館地区
		上 杉 昌 弘 師		旭川地区
プ ボ 師		釧路地区		
※新委員会		内 藤 孝 文 師	2年	北見地区
	広報委員会	松 村 繁 彦 師		司祭委員 佐久間・桶田助祭
	聖書委員会	蓑 島 克 哉 師		司祭委員 松村
	学校支援委員会	上 杉 昌 弘 師		司祭委員 松村・佐久間・蓑島
	エキュメニカル	新 海 雅 典 師		
	いのち・人権・平和委員会	新 海 雅 典 師		正平・難民・部落等の窓口
	多文化共生委員会	S r . 田 口 保 子		ベトナム語対応 チャン・タン・ラム師
その他				
※新委員会	カリタス委員会	佐 藤 謙 一 師	司教任命	札幌カリタス担当
		松 村 繁 彦 師		カリタスジャパン担当
		佐 久 間 力 師		災害対応部門担当
	シノドスチーム	松 村 繁 彦 師		司教任命:Sr.宮崎妙子・荒木関亮
		千 葉 充 師		
	教皇庁宣教事業	佐 久 間 力 師		教区ディレクター(協力者:松村)
ハラスメント対応デスク ハラスメント対応委員会	松 村 繁 彦 師			
	担当司祭を置く	(非公表対応)		

2025年度 カトリック札幌司教区本部一般会計 決算書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

収入の部			
勘定科目	予算額	決算額	摘要
分担金収入	78,590,000	76,590,000	
教区本部分担金（札幌地区）	51,700,000	49,700,000	
教区本部分担金（苫小牧地区）	5,690,000	5,690,000	
教区本部分担金（旭川地区）	7,160,000	7,160,000	
教区本部分担金（釧路地区）	3,280,000	3,280,000	
教区本部分担金（函館地区）	9,060,000	9,060,000	
教区本部分担金（北見地区）	1,700,000	1,700,000	
一般寄付金	5,000,000	5,419,131	白石墓地・トラビスト・会場献金他
特別寄付金	0	0	
司祭寄付金	0	1,000,000	司祭2
広報の日献金振替収入	350,000	273,606	広報の日献金収入の50%
難民移住移動の日献金振替収入	350,000	349,761	移住移動の日献金収入の50%
その他援助金収入	0	0	
受取利息配当金収入	10,000	61,411	
賃賃料収入	4,210,000	4,211,040	カトリック学園家賃・電柱地代
特定積立金取崩収入（一般口）	6,000,000	8,000,000	
特定積立金取崩収入（青少年）	2,500,000	1,304,749	フィリピンエクスポージャー他
特定積立金取崩収入（管理口）	14,000,000	12,000,000	管理部門人件費・光熱費
特定積立金取崩収入（司祭口）	3,180,000	3,240,000	司祭車両手当・リース1/2
退職積立金取崩収入	0	9,005,000	
祭儀献金収入	32,000,000	36,948,869	司祭・フランシスコ会より
未収入金	0	0	
雑収入	300,000	582,000	移住連他・講師派遣料謝金他
計	146,490,000	158,985,567	
前年度繰越金	23,954,024	23,954,024	
合 計	170,444,024	182,939,591	

支出の部			
勘定科目	予算額	決算額	摘要
祭儀活動費支出	6,350,000	4,815,095	
祭儀費	1,000,000	381,433	ホスチア・ワイン他
宣教教化費	0	50,000	全国典礼担当者会議
図書資料費	150,000	173,125	司祭への書籍・冊子・NHK他
教区宣教活動費	3,700,000	3,207,218	正平・青年の家・教区宣司評他
国際協力活動費	1,500,000	1,003,319	難民移住移動者委員会
一般寄付金支出	23,000,000	23,286,935	フランシスコ会・CNDへ
宣教省献金支出	1,000,000	1,000,000	
分担金支出	2,500,000	2,430,000	
中央協議会分担金	1,800,000	1,830,000	
東京管区裁判所経費分担金	200,000	100,000	
放送分担金	500,000	500,000	こころのともしび
本部援助金支出	0	0	
人件費支出	84,200,000	87,037,992	
本部司祭給与	53,400,000	50,138,500	給与賞与23名・車両手当16名
本部職員給与	22,300,000	19,839,030	職員4.5名
本部司祭法定福利費	4,850,000	4,764,656	
本部職員法定福利費	3,650,000	3,290,806	
退職金	0	9,005,000	職員1名
運営管理費支出	33,620,000	30,189,430	
施設設備修繕費	7,000,000	4,690,502	センター・駐車場・エレベーター保守他
備品修繕費	100,000	0	
墓地管理費	600,000	722,150	白石プレート
消耗品費	1,200,000	1,106,570	事務用品・PC用品他
通信運搬費	1,400,000	1,022,504	電話・FAX・ネット他
会議費	100,000	47,640	顧問会・評議会他
渉外費	200,000	119,200	外部慶弔・来客司祭接待他
慶弔費	50,000	0	
旅費交通費	2,000,000	2,164,000	司教司祭他出張旅費他
光熱水費	5,500,000	5,271,001	電気・水道・ガス
公租公課	30,000	6,500	膳本・印鑑証明他
報酬手数料	2,500,000	1,964,372	公認会計士・弁護士・社労士他
賃借料	2,700,000	2,288,742	電話機・複合機・PC・車両リース
車両・燃料費	300,000	190,186	ガソリン代
広報費	860,000	995,728	教区ニュース4回・編集ソフト
福利厚生費	450,000	601,727	司祭職員健康診断他
業務委託費	8,000,000	8,298,885	センター用務・清掃・除雪他
損害保険料	600,000	670,420	センター火災保険・損害賠償保険
雑費	30,000	29,303	各種団体年会費・クリーニング代
建物取得支出	0	0	
建物付属設備取得支出	0	0	
構築物取得支出	0	0	
機器備品取得支出	300,000	0	
退職金積立支出	1,250,000	1,000,000	退職職員積立4名分
営繕等積立金繰入支出	10,000,000	10,000,000	
予備費	8,224,024	0	
計	170,444,024	159,759,452	
次年度繰越金	0	23,180,139	
合 計	170,444,024	182,939,591	

性虐待被害者のための 祈りと償いの日

3月6日(金)、第10回となる性虐待被害者のための祈りと償いの日、カトリック北一条教会にて勝谷太治司教司式によるミサが行われた。

勝谷司教は説教冒頭で、「近年、教会における聖職者による虐待やハラスメントの問題が社会的に大きく取り上げられている。一般社会からは修道会や教区の違いは理解されにくく、問題は『カトリック教会全体の問題』として受け止められるため教会としての説明責任と適切な対応が求められている。」と述べた。

被害者は教会に対して強い不信任を抱くことが多く、教会関係者には事実を語りにくい場合がある。そのため、問題の調査や対応においては第三者機関の関与が重要とされている。このような背景から、虐待やハラスメントを未然に防ぐための取り組みとして、教会においてもセーフガーディング(Safeguarding)の導入と制度化が検討されている。

- ①聖職者・教会職員の厳格な行動規範の制定
- ②通報義務の徹底
- ③選別・適性確認と研修
- ④被害者中心の対応への転換

日本の教会においても、セーフガーディングに関する研修や制度整備を進め、具体的な防止体制の構築を目指し、すべての人の尊厳を守り、特に弱い立場にある子どもや大人を守るために、教会全体で問題意識を共有し、協力して取り組むことが求められている。

教区ハラスメント対応デスクでは、今後も啓発の一環として、教区ニュースに案内および記事掲載されると同時に、ホットラインによる相談のほか各教会からの依頼を受けて、研修や祈りの集いなどにも対応する。また、「『聖職者による』だけではなく、信徒間ハラスメントなど、困った時はいつでも遠慮なくデスクへ連絡してほしい」と呼びかけている。

(札幌司教区ハラスメント対応デスク担当司祭・松村繁彦)

カトリック札幌司教区 ハラスメント対応デスク

080-2879-3168

火曜～金曜 10:00～14:00
祝日及び夏季冬季休業日除く

✉ sapporo.harassmentdesk@gmail.com



あなたの翼の陰に私は隠れる。



フランシスコ会札幌修道院
札幌北ブロック協力
ウルバン・サワビエ神父

94年前、ある若い母親は「子供ができたのではないか」かと思っていた。母親は嬉しそうな顔をしたのだろうか？いいえ。困っていたのだ。どうしよう。お父さんは仕事がないし、今でさえ親子3人食べ物もない。しかし、母親は「また雑草とタンポポを探しましう！」と考え、子を産んで、ヘルマンと名付けた。ご馳走はなかったが、子はいつもブクブクしていた。

来る子供を潜って、やつと外に出て最後の列車に飛び込んだ。空爆で地下にいた何十人もの子供が死んだ。

その3か月後の学校帰り、100人位の子供が遊びながら列車を待っていた。兄の友達が「食べ物をくれる所を知っている」と静かに言ったので急いで走った。食べ物を待っていた時、虫の群れのように飛行機が飛んできて、駅の近くに次々と爆弾を落とした。地も家も震えて揺れ動いた。私達は逃げて、また逃げて、ある洞窟の中に隠れた。駅で遊んでいた子供はみな死んだ。

10年後、空爆の後、家族4人は田舎に住むようになり、ヘルマンと兄は「汽車ポポ」でフルダの学校へ通った。ある時、サイレンが鳴った。敵の飛行機が来る。地下へ走ろう！階段の下に着いた時、ヘルマンの中に「モヤモヤ」が始まった。「帰ろう！帰ろう！」と思つて、上から急いで降りて

戦争が終わり、13歳の時、フランシスコ会が作った新しい学生寮でブラジル人の宣教師に出会い、ブラジルの宣教師になるという夢が生まれた。20歳で入会するまでその夢で生

きてきた。アマゾンの森、想像できない広さ、危ない川、何時間もの口バの旅。着衣式で初めて服を着た時、これからはウルバンと呼ばれると聞いた時に感動したが、神の声を聴いたのはニコラウス神父の別れの説教の時だった。「ウルバン、なぜ日本へ行きたくないのでしょうか。もしそこでお前を待っていたら？」私は泣いていた。

5年間、日本への小さな招き声を無視しようとしたが、助祭になり、管区長から日本に行くよう言われた時、10年以上の生き生きした夢が完全に潰され、心は死すはずだったが、かえって、心は喜びに爆発した。ブラジルの事は熱い風に心から飛ばされた。新しい心、新しい夢が生まれた。

28歳の時に日本に着いた。65年前、その時主に出会ったのは忘れない。私も93歳になった。日本へ来たことを後悔した事はない。いろんな所で働いて生きてきた。つらい時もあつたが、赤い聖体ランブと祈る共同体のある所にいつも生きる水が流れ出る。神に感謝。

イースタービレッジ ～ 虹のかかる家から未来へ ～



フィリピン・ミンダナオ島にあるイースタービレッジ・チルドレンズホームは、家庭で暮らすことが困難な子どもたちのための児童養護施設です。2002年8月に小さな借家からスタートし、2003年8月には子どもたちの家という意味で「イースタービレッジ・オーファニッツ」と名付けられ、そして2004年8月には、多くの支援を受けて、現在のリバーパークの地に建物が建設されました。2017年には、正式名がEaster Village Children's Home（イースタービレッジ・チルドレンズ・ホーム）と改名され、2002年の創設以来、多くの支援者の祈りと協力に支えられながら活動を続けてきました。

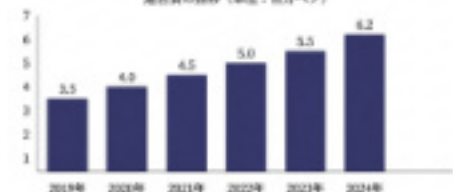
現在、施設で生活する子ども・若者18名、地域の奨学生26名、合計44名を支援しています。また、創立以来220名を超える子どもたちを受け入れ自立への歩みを支えてきました。

近年は物価上昇や為替変動の影響を受け、施設運営費も増加しています。2019年に350万ペソ（約735万円）だった運営費は、2024年には620万ペソ（約1,612万円）となりました。しかし、皆さまからの温かいご支援により、子どもたちの生活環境を維持し、教育や医療、日常生活に必要な支援を継続することができています。

運営費の推移（2019年～2024年）

- ・ 運営費は年々増加しています。
- ・ 物価上昇等の影響を受けています。

運営費の推移（単位：百万ペソ）



参考：為替レートは
2019年平均127円/100P
2023年平均124円/100P

また、18歳以降の若者を支援する「自立支援プログラム」にも力を入れています。就学支

援や職業訓練、生活技術の習得などを通して、若者たちが社会の中で自信を持って歩んでいけるよう取り組んでいます。

2024年度の支出では、児童養護施設としての基礎プログラムに71%、自立支援費に17%、管理運営費に12%が充てられました。皆さまからのご寄付は、子どもたちの日々の生活と将来への希望を支える大切な力となっています。感謝申し上げます。

ミンダナオ島では今もなお、貧困や社会的課題に直面する子どもたちが少なくありません。それでも子どもたちは学び、笑い、夢を抱きながら成長しています。

虹がかかる施設の風景は、子どもたちの未来への希望を象徴しているようです。これからも一人一人が安心して成長できる居場所であり続けられるよう、皆さまのお祈りとご支援を心よりお願いいたします。

（イースタービレッジ・ミンダナオを支える会事務局・西田あつこ）



カトリック手稲教会所属の信者で、ベトナム人技能実習生ズオン・ゴック・トゥさんは、2019年の来日間もなく、札幌の建設現場で倒れました。先天性の脳動静脈奇形を発症し、昏睡状態となり、右脳内出血・脳ヘルニアと診断されました。

以来、今日まで7年間、手厚い治療を受けながらも、回復は見られず、人工呼吸器装着、重度意識障害で、帰国も困難との事でした。

今年に入り、入院も長くなり、最悪の事態も予想される中で、両親が健在のうちに、ベトナムから家族を呼びたい、との皆の思いが強くなりました。しかしながら、今は、短期滞在とはいえ、外国人のビザ申請審査は厳しく、家族招聘の理由や滞在時の保証人、費用負担、滞在日程、医師の診断書、などの提出が求められました。今回は、特に、招聘経緯書の中でも、病状が思わしくなく、家族再会

急性を要し、人道的配慮をお願いしたい、と訴え、その思いが大使館にも届き、家族訪問短期滞在ビザが無事発給されました。

今年4月の一週間、両親と兄が来日し、トゥさんと、7

「ベトナム人技能実習生トゥさん、7年ぶりに、両親と再会」



この7年間、病院関係者や札幌市、札幌国際プラザ、カトリック札幌司教区、特に、手稲教会の信者の皆さんなど、多くの方々の献身的なサポートを頂きました。また、今回の訪問は、石狩花川マリリア院の全面的受入支援のお陰です。心から感謝を申し上げます。

辛い状況は、今も続いています。帰国前に、両親が、「どんな時も神様が寄り添ってください。」と仰っていた言葉に、家族の絆と信仰の深さを感じました。

遠く離れています。が、これからもこれまで同様、回復を神に祈りながら、家族の絆の証としてトゥさんと両親が、テレビ電話を通して対面出来るよう、我々が出来るサポートをして参りたいと考えております。皆さんの日々のお祈りを、心からお願いたします。

(手稲教会・徳能恵子
円山教会・菅原俊明)

アントニ・ガウディ没後百年を迎える2026年6月10日、スペインのバルセロナでガウディの代表作「サグラダ・ファミリア聖堂」の最も高い塔、「イエス・キリストの塔」の完成を祝うミサが教皇レオ十四世により執り行われた。教皇は説教の中で、「イエスを信じながら戦争を助長することはできない。イエスを信じながら罪のない人々を殺すことはできない。イエスを信じながら、苦しむ人々、嘆く人々、悲

ともに生きる

バルセロナの取り組み

対して、強く発言されたように感じた。教皇は、分断や敵対をおおる言葉を避けること、偽情報や中傷よりも真実と対話を重視すること、そして、デジタル空間での情報操作やAIによる欺瞞に警戒することを繰り返し訴えている。

完成を待ち望んでいた人は、世界中にいます。現地の方々の思いは格別だと思ふ。今回の教皇メッセージにより改めてこの聖堂が存在する大切さを

感じたのではないだろうか。聖堂があるバルセロナ市は、2007、8年頃に経済危機を抱えると、自分たちの仕事が移民に奪われるのではないかと、移民に対する差別的なうわさが広がり、それを止めようとすると、更に広く拡散し、うわさだけが先走りするような状況が生まれていった。そこで、バルセロナ市は、行政・NGO・地域の自治組織・移民団体が協力して研修・ワークショップ・祭りなどをを行う市民参加型の公共政策として、「反うわさ戦略」を打ち出した。

偏見を減らしながら、だれもが暮らしやすい社会をつくるための地道な取り組みである。「うわさ」をする／される人々だけの問題とせず、地域住民全体の認識や態度、ふるまいを街ぐるみで改善することから差別を防ぎ、より良い共生を実現し、多様性が持つ可能性を引き出すことを目的としている。バルセロナへ行ってみたい！

(札幌教区難民移住移動者担当・西千津)

7年ぶりの カテドラルコンサート



5月30日(土)、カトリック北一条教会にて第25回カテドラルコンサート「赤枝サンテソン留果オルガンリサイタル」が開催されました。カテドラルコンサートは、2007年にオルガンが設置されてから毎年行われていましたが、2020年コロナ禍で中止を余儀なくされて以来休止してまいりました。今回7年ぶりの開催となりましたが、200名以上の来場者を得て、盛会のうちに終わりました。

手の中、留果氏が登場、祈りをテーマに組んだプログラムによる演奏やお話で聖堂全体が祈りに包まれました。留果氏によってオルガンの可能性が十分引き出され、素晴らしい演奏に皆さんが引き込まれていったように感じました。留果氏もオルガンはもちろん、聖堂の雰囲気をとてにも気に入って、大変喜んでいました。

また、コンサートに先立ち5月16日(土)、藤女子大学キリスト教文化研究所と連携して、公開講座「オルガンに親しむ」カテドラルコンサートへの誘いが鑑賞の準備講座として開催され、オルガンについて、またプログラムについてなどを学び、鑑賞の一助となりました。

いずれも教会の皆さんをはじめ、ご来場頂いた皆さんのご協力があつて無事終了することができました。実行委員会一同、心より感謝しております。来年はオルガンが設置されて20年となりますので、記念コンサートを予定しています。また皆さんに楽しんでいただけるように準備してまいりますので、ご来場、ご協力をよろしく願います。

(カテドラルコンサート実行委員会・大野敦子)

計報

◆殉教者聖ゲオルギオの

フランシスコ修道会



Sr.M.ゲオルギア
加賀ツエ

3月15日月形藤の園にて神様の
みもとに召されました。94歳。

【略歴】

1931年11月29日生まれ
1951年12月24日受洗
1956年3月19日入会
1964年9月23日終生誓願
2018年11月3日ダイヤモンド祝

◆マリアの宣教師

フランシスコ修道会



Sr.M.アスンタ
佐々木アサ

6月5日天使病院にて神様の
みもとに召されました。93歳。

【略歴】

1933年1月8日生まれ
1957年9月17日入会
1963年3月19日終生誓願

白石共同墓

札幌市白石区平和通
10丁目北5-1
札幌市白石本通墓地

札幌教区の司祭・修道者・
信徒ならびにその家族を対象
とした合葬墓



クリプト札幌

カトリック札幌司教区
納骨堂

札幌教区カトリックセンター地下
家族壇568区画・合葬壇730
天候問わずいつでも墓参可能

お問い合わせ 〒060-0031 札幌市中央区北一条東6丁目10 札幌司教区本部事務局
電話 ■白石共同墓：011-241-2785 ■クリプト札幌：011-221-4244
平日12:00～13:00を除く9:00～17:00 (土曜日曜祝日及び夏季冬季休業を除く)

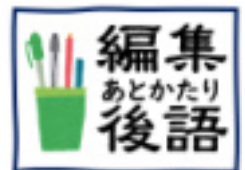
教区事務局からお知らせ



■教区事務局夏休み

8月8日(土)～8月16日(日)

8月17日(月)より通常業務を行います
なお、業務時間は月曜から金曜の平日
12:00～13:00を除く9:00～17:00



季節柄、街
では提灯が通
り沿いに並び、
街のお祭りが
近づいている
と教えてくれ
ます。この時
期、浴衣姿の人や、子供たちが
嬉しそうにお面をつけ、綿あめ
を振り回しながら歩いているの
を見てほっこりします。

わたしたちはお祭りが好きで
すが、本来「祭り」は「祀(まつ
つる)」を語源とし、神仏や祖
先の霊を慰め、感謝や祈りを捧
げる行為です。現代では賑やか
なイベントを指すことが多いで
すが、本来は人智を超えた存在
に対する「祈り」や「感謝の可
視化」が根底にある宗教的な儀
式です。

教会も、ミサという「祭儀」
を行います。それも、神様に感
謝を捧げるとともに、自らを奉
納し、それを聖化して分配して
もらうものです。これはまさに
神への「感謝の可視化」であり、
神様からの「愛の可視化」秘跡
です。愛の交わりを表現する
「主の食卓」に、いつもわたし
たちが招かれていること知る、
喜びのときです。この、種々の
お祭りが始まる季節に、あらた
めてわたしたちの「感謝の祭儀」
を味わってみるのも良いと感じ
た初夏の頃でした。(佐久間力)